

2025 年 5 月 30 日

学校法人三幸学園
大阪リゾート&スポーツ専門学校
校長 平松 敏機 殿

学校関係者評価委員会
委員長 関元 崇志

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 関元 崇志（株式会社 Globe 代表取締役）
- ② 西鶴 和博（ミズノスポーツサービス株式会社 事業開発推進部プロフェッサー）
- ③ 杉山 匡人（株式会社 CODE7）
- ④ 篠原 康秀（株式会社 FJG 人材支援本部人事部マネージャー）
- ⑤ 西寺 志裕子（飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 教頭）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 5 月 28 日（会場 大阪リゾート&スポーツ専門学校 7A 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 永山 雄一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 関元 崇志

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・教育理念、目的、人材育成について

教育理念の生徒・保護者・講師への浸透

・学校運営について

初期教育の強化、通信制高校出身者へのアプローチ強化、退学者への早期対応等

・教育活動

資格検定取得の目的の明確化と試験対策

・学修成果

就職を含むキャリア支援の強化

・学生支援

特に卒業生支援の強化

・教育環境

実習先・ボランティアの確保

・学生の受け入れ募集

高校生の状況に応じたオープンキャンパスの対応（個別最適化）

・社会貢献、地域貢献

地域の方々に向けた学びの提供

② 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や人材育成像について、生徒や保護者に対し一方的に伝える形であるため、取得できる資格や就職先には関心があるものの、ディプロマポリシーに対しての理解が薄い。

② 今後の改善方策

・一方的な伝達では理解の浸透にはつながらない為、事象に対する生活指導だけではなく、ディプロマポリシーにも触れながら生徒・保護者と連携を深めていく。
・保護者との連携ツール「スクレ」を2025年度より導入。より双方向型のやり取りが可能となる見込み。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

関元委員：保護者は、取得できる資格や就職先には興味があるが、教育理念などに興味がないように感じる。

自分の学生時代を思い返しても保護者と連携をしていたイメージがない。

保護者との連携は難しいと感じるため、生徒にもっと目線を向けた方が良いのではないかと。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・意思決定機能は常勤職員間では周知しているものの、規則として明確化できてはいない。
- ・コンプライアンス体制の整備は着手しているものの、全体への理解を促す機会を設定できていない。

② 今後の改善方策

- ・それぞれの役割と権限を明文化し、全体で共通理解を図る場を新年度会議や振り返り会議で設定する。
- ・コンプライアンス体制整備のため、全体会議内でハラスメント研修を実施する。
- ・問題となりそうな案件がある場合は、該当者と責任者にて面談を実施し、共通認識を図り、抑止に努める。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員:トラブル回避のため権限を明確にしており、システム化している。ハラスメントやコンプライアンスに関しては、研修を何度も受講するようにし規律化するようにしている。

杉山委員:ある程度、組織の中で意思決定をする担当は決めている。

篠原委員:最近メンバーが増えたため、メンバーの役割一覧を明確化し共通認識を図っている。各個人での目標管理をし、1on1 で進捗を確認している。女性メンバーが多いライフイベントなどで入れ替わりがあるため、自分の役割を洗い出し誰が次担当するのかを見える化をするようにしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・職業に関する評価を直接頂けるインターンシップや実習等、実践的な教育の機会に参加する生徒が少ない。
その背景として、以下が挙げられる。

- 1)教職員に対してディプロマポリシーの浸透が不足している。
- 2)生徒が何に取り組むことで能力が身につくのか理解できていない。
- 3)経済的理由でアルバイトを優先しなければいけないこと、実習に参加しても雑用で終わることなどある。

② 今後の改善方策

・今年度より学内で生徒たちがフィットネスクラブを運営する「RS フィットネス」を実施。
・アウトプットできる仕組み・環境づくりを開始し、実践教育の機会提供と、業界人からのフィードバックをいただける機会を作っている。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

関元委員：会社のビジョンによって求める能力は異なってくるのではないかと。学校は生徒の性格に合わせてアドバイスや選択ができるようにする必要があるのではないかと。個人的には目配り・気配り・心配が大事だと思っている。

西鶴委員：チャレンジ精神が大事。自分のなりたいものだけでは生活は成り立っていかない。嫌なことも仕事としてやっていかないといけない。見えないところでもチャレンジ精神を持って努力できるかが重要。

杉山委員：一から育てることはせず、人をひっぱってくることが多いが、仕事に対して能動的に取り組めることが大事。

篠原委員：KARADA ファクトリーがお客様から評価頂いているところが2つある。1つ目が「技術力」である。集合型の研修方式をとっているため、どの店舗に訪れても同じクオリティの施術を受けることができる。2つ目は「人柄」である。人柄を見てから技術力を見るお客様が多い。優れた成績を修めているスタッフは人柄も良い。お客様のニーズにいかに対応することができるか、自分が理解し問題解決ができるスタッフが伸びる傾向にある。また自分の機嫌は自分でとることができる。

西寺委員：挨拶ができることが大事。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・主要資格の合格率は年々高くなってきているが、姉妹校と比較すると伸びしろがある。
- ・退学率の目標数値(5.3%以下)に対して、最終目標数値を上回ってしまった(2024 年度退学率 6.3%)

② 今後の改善方策

- ・卒業生の状況把握や卒業後のキャリア形成のためのサポートが不足している。
- ・資格合格率向上のための対策は今年度も継続して実施する。
⇒退学率を低減させるため、早期発見(生徒の事前情報の集約・整理、担任を入れ替えての授業運営)・
早期対応(担任に加え、心理師とのカウンセリング)を実施し、初期対応に注力している。
- ・退学率に影響を与える授業満足度の向上を図るため、授業見学や講師面談を強化する。
- ・業界内アルバイトを積極的に案内し、在学中から業界に対しての興味関心を持たせ、キャリアに繋げる。
- ・定期的な企業訪問(OB・OG 訪問)や同窓会の機会を活用し、卒業生との繋がりをつくる。

③ 特記事項

- ・SNS を活用し、卒業後のキャリアに関するアンケートの回答促しを実施
- ・1DAY インターンを積極的に開催し、早期から職業理解
- ・早期の担任発表(3月)
- ・2024 年 10 月に同窓会を開催し、卒業生と繋がる場の創出を行った

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員：退職を出さないようにしている。だが、メンタル面が理由で退職するケースが散見されている。

社内での取り組みでは 1on1 ミーティングを定期的実施するようにしている。上司と部下で 30 分間仕事の話をしてはいけないルール上のもとコミュニケーションをとり早期発見をするようにしている。
1on1 の中で退職しそうな気配を感じとることができ、退職を止めることができたケースもある。

杉山委員：新卒採用はしていないが、資格発行をしている会社で更新率が 80%以上となっている。

更新したいと思う仕組み作りや勉強内容をしている。1 人前になったら独立するために
退職するケースが業界として多い、インセンティブをつけることで会社に残った方がメリットがあるように
している。人間関係を理由に退職するケースが多いため孤立しないようにチーム制としている。

篠原委員：早期離職については悩んでいる。入社～2か月くらいまでは導入研修を行い、そのタイミングで退職する
ケースが多い。お客様がついてからの離職はそこまで多くない。退職防止の施策としては、1on1 を

縦横斜めの関係で実施している。また 2 年前からメンター制度を導入しており、一昨年と昨年を比較すると退職者は下がった。

関元委員： 離職についてはしょうがないと思っている。会社を守らないといけないため、会社のため、社会のために働いてくれる人材を大事にしたい。辞めさせないようにする時間を多くとらないようにしている。1on1 で運動する時間を設定し、コミュニケーションをとっている。退学を止めるために学校内エリートクラスと普通クラスと分け、生徒が選択できるようにした方が良いのではないか。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・地域のカウンセリングルームはあるが、利用者が少ない（利用がしにくい・ハードルが高い）
- ・学生の「生活環境」に対する支援体制が薄い
- ・卒業生への支援体制が整備されておらず、転職求人斡旋等ができていない。
- ・高校との職業教育連携ができていない。

② 今後の改善方策

- ・地域のカウンセリングルームに繋げる前段階として、学内で相談窓口の設置をしている。
- ・スクールソーシャルワーカーとの連携を今年度から開始する。
- ・保護者との連絡ツールアプリ「スクレ」の導入を開始する。
- ・リゾスポキャリアラボを本格稼働させ、卒業生への支援体制を強化する。
- ・卒業生向け公式 LINE を活用し、転職求人紹介等を行う。
- ・高校への職業教育連携を実施する。

③ 特記事項

- ・ハイパーQU を利用したクラス・個人状況の把握
- ・卒業生支援として、前年度の卒業生を対象に同窓会を開催。（2024 年度から今後、毎年開催予定）

④ 学校関係者評価委員会コメント

篠原委員：昨年、東京校では学内サロンとして現役で働いているスタッフと在校生がコラボしたイベントを実施した。

関元委員：卒業生で今働いているスタッフに授業をもってもらうなども面白いのではないかな。

また卒業生の勤務先を紹介するツールがあると良いのではないかな。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・施設、備品等の老朽化

② 今後の改善方策

- ・学内プロジェクターを全て入れ替え
- ・定期的な施設改善と備品の新規購入

③ 特記事項

- ・3号館マシンルーム(2024年度8月改修済)
- ・2号館701教室・801教室を座学教室から実技教室へレイアウト変更(2025年4月)
- ・防災マニュアルを作成し、職員で共通認識を図った

④ 学校関係者評価委員会コメント

西鶴委員:全社統の防災マニュアルがある。定期的に防災訓練を実施している。

篠原委員:イオンモールなど商業施設に入っているケースが多く、施設に指示に沿って実施している。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・スポーツトレーナー科の出願数の減少
- ・通信制高校出身の生徒への対応

② 今後の改善方策

- ・2年制スポーツトレーナー科をはじめ、各学科のカリキュラム変更の理解、広報面での打ち出しの見直し。
- ・通信制高校へ出身の生徒の理解・対応強化（ハイフレックス制度の検討等）

② 特記事項

- ・特定の症状や障害を持っている生徒の出口(採用)について、企業の障がい者雇用枠の活用についても今後強化していく。

③ 学校関係者評価委員会コメント

井ノ下さん：3年制課程と比較した時に、2年制課程で現場として知識・スキルが足りるのか。

関元委員：2年制と3年制どちらか生徒が選べるようにしたら良いのではないかな。

篠原委員：研修は学歴関係なく同じスタートをしている。学歴別に活躍度合いを追ってみたところ専門学生の中で特に差はみられない。誰でもプロになれるような研修システムのため学歴や修業年限は関係ない。しかし、即戦力の傾向が強い企業では、需要は異なってくるのではないかな。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

・なし

【予算・収支計画】

・なし

【会計監査】

・なし

【財務情報の公開】

・なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

・今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

・なし

③ 特記事項

・第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域への貢献活動が十分にできていない(コンテンツはあるが周知できておらず、認知度が低い)
- ・学びのアウトプットに繋がるボランティアが少ない

② 今後の改善方策

- ・連携企業とのボランティア内容の見直し・相談
- ・ボランティアの質・量ともに向上を図る

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生の受入れ体制の整備や手続き等の理解不足。
- ・日本語学校などとの連携や交流に着手できていない。

② 今後の改善方策

- ・該当部署と連携し、留学生受け入れの手続き・カリキュラムの整備を行う。
- ・日本語学校への訪問強化をもとに現場のニーズを把握する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

篠原委員:海外に 50 店舗ほど展開しているため、積極的に採用している。しかし、留学ビザから就労ビザへの切り替えのハードルが高い。

西鶴委員:日本人の人口が減っていくため、社内でも外国人採用を積極的に行っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

関元委員:昨年の課題が具体的な振り返りであった。我々企業としても非常に勉強になった。

学校現場は生徒がより良い環境で勉強に取り組めるように学校と企業で連携をしていきたい。

良い情報共有が今後もっとできるようにしていきたい。